



マルチホップ無線技術

リレー方式で 確実にデータを届けます

背景・目的

- 当該技術は、スマートメータにおける電力量の収集などに利用するため採用した技術の一つです。2012年7月に規制が緩和され高出力の無線機を利用できるようになったため、効率的設備形成が期待できます。
- 当社管内の山間部に高出力無線機を適用するケースを想定して、電波伝搬特性を把握するフィールド試験を実施し貴重な基礎データを収集しています。

特長

- マルチホップ無線は、リレー方式でデータを中継（送り受け）することで広い通信範囲をカバーできます。
- 各無線機が自律的に最適なルートを判断してネットワークを構築するため高信頼度です。

用途

- スマートメータネットワーク
- 各種センサーネットワーク
- 災害時の臨時ネットワーク など



フィールド試験現場→

←マルチホップ無線機



研究者の ひとこと

高出力のマルチホップ無線は利用範囲が広いと考えられるため、さらなる山間部への適用を見据え、経済性を考慮した伝送路構築に向けて電波伝搬特性を把握しています。

これまでのところ、針葉樹林と山陰における特性を把握しました。現在は、広葉樹林と急峻な山陰における特性についてデータ収集を行い分析を行っております。これらの研究を通じて得た知見や活用方法については社内外へ展開します。